口腔衛生委員会報告

疾病ハイリスクアプローチ事業について

１　はじめに

本委員会では、幼児･児童生徒の口腔疾患の実態と問題点を把握し、その対策を図るため、ハイリスクアプローチの在り方について検討した。今年度は、昨年度に引き続き、依然として疾病罹患率の高い歯肉炎に焦点を当てた指導を実施した。また、咀嚼や口腔機能の未発達等の課題改善のため、食に関する指導についても取組を行った。さらに、県内の学校に具体的な取組を紹介し、広くハイリスクアプローチの啓発を行うことにした。

２　疾病ハイリスクアプローチモデル校

（１）疾病ハイリスク把握フローチャートについて

日本学校歯科医会発行のハイリスク把握フローチャートを参考にし、学校の実情に応じて対象の把握をする。

（２）対象

定期健康診断において以下の項目に該当する幼児児童生徒

①未処置３本以上を有する者

②歯垢の状態２の者

③歯肉の状態２の者

※これらの項目のうち、単独あるいは複数の項目を選択し、全校で４０名程度の児童生徒を対象とする。人数の調整により全学年としてもよい。したがって対象児童生徒の未処置２本以下、歯肉･歯垢の状態が１になることも考えられる。

（３）連絡方法

①指導の前に家庭に連絡する。（家庭へはハイリスクという言葉は伝えない）

②１２月末までに終了し、結果報告を提出

（４）指導

①保健指導（集団指導）

内容は学校歯科医と協議の上で決定し、養護教諭が行う。

学年ごとに分けて少人数で行うことが理想であるが、日程の都合で複数学年を一度に行ってもよい。

※あくまでもそれぞれの学校の実情に応じて、実地し易い方法で行うこととする。

②保健指導（個別指導）

内容は学校歯科医と協議の上、保健室にて養護教諭が個別指導を行う。

③学校歯科医による保健指導

①②終了後に、全体指導を行う。（保護者参加型が望ましい）

内容は学校歯科医と協議の上、学校の実情に応じて実施しやすい方法で指導を行うこととする。（保護者参加型が望ましい）

学年ごとに分けて少人数で行うことが理想であるが、日程の都合で複数学年を一度に行ってもよい。また、養護教諭が保健室にて個別指導を行ってもよい。

（５）モデル校の取組状況

口腔衛生委員会の委員の担当する学校に協力を依頼した。幼稚園については、歯肉炎への取組は困難と思われるが、咀嚼や口腔機能の向上を目指すなど実施可能な指導の実施を依頼した。

小 学 校：	岐阜市立徹明さくら小学校、岐阜市立長森北小学校、岐阜市立岩野田小学校、美濃加茂市立太田小学校、下呂市立萩原小学校	５校
高等学校：	岐南工業高等学校、海津明誠高等学校	２校
特別支援学校：	飛騨特別支援学校	１校
幼 稚 園：	多治見市立笠原小学校附属幼稚園	１園

３　モデル校の取組報告

■　岐阜市立徹明さくら小学校

１　実態

給食後の歯みがきには、第５学年からは歯ブラシとワンタフトを併用し、第６学年になるとさらにデンタルフロスを併用し、歯肉炎予防を意識した歯みがきを実践している。５月の歯科健診で未処置歯のあった者、歯垢の状態が２の者、歯肉の状態が２の者はいないが、歯垢の状態が１の者は22.2%、歯肉の状態が１の者は31.1%と、なかなか罹患率が改善されないのが現状である。児童の歯みがきに取り組む様子を見ていると、罹患率が改善されないのは、知識やブラッシングの実践力は身に付いてきたが、継続する力が弱いことに原因があることが分かった。

今年度は、第６学年を対象に歯肉炎予防の意識が継続できるような取組を工夫することで、歯肉炎罹患率の改善を目指す。

２　実践（第６学年の年間を通した指導）

（１）５月　歯科衛生士による個別指導

歯科健診が終わった児童は、歯垢が付着している部分と歯肉炎の場所が明記された「歯医者さんのアドバイス」カードを受け取って、歯科衛生士にみがき方の指導を受けている。「歯と歯肉の間は力を入れすぎないで軽く細かくみがくこと」「歯と歯肉の間に毛先がぴったり当たるようにみがくこと」など、一人一人の口の中の状態に合った指導をしている。

指導後に、児童が歯科衛生士からの指導内容をアドバイスカードに記入することで、自分のみがき方の問題点が明確になり、みがき方の改善につながっている。

（２）６・１１月　口腔内写真を活用した歯科保健指導

学級活動の時間に各学年とも年間２時間の歯科保健指導を位置付けている。６月は技術面（「さくら３周みがき」と学年の目標に合ったみがき方指導）１１月は知識面の指導を行っている。担任を中心に、養護教諭、栄養教諭、学校歯科医、歯科衛生士がチームとして関わることで、１時間の中で集団指導と個別指導ができている。

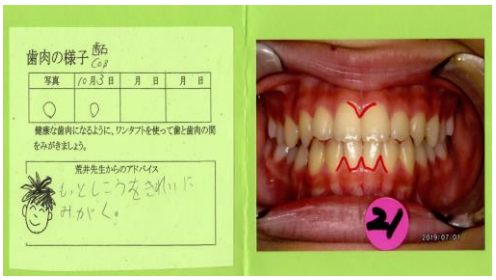
今年度は、学校歯科医が出演する映像を作成し、２クラスがそれぞれの教室でテレビを見ながら授業を進めた。専門性を生かした指導が、知識の習得とみがき方の向上と意欲につながっている。

また、授業の中で歯肉炎を明記した口腔内写真を活用し、歯ブラシとワンタフトを併用した指導は、歯肉炎を見分ける目を養い、炎症がある部分を意識してみがくことができることに役立っている。

（３）９月～１０月　歯の強化週間

２週間を歯の強化週間として、給食後の歯みがきの後に染め出しを行っている。染め出しで赤くなった部分と歯肉炎の部分が同じような場所にあることを確認している。染め出しを毎日行っていくうちに、強化週間が終わるころには、赤く染まる部分がほとんどなく

なった。２週間の間に２回臨時の歯科健診を行い歯肉炎が改善されたことが実感できた児童は、さらに意欲的な歯みがきができるようになった。



歯みがきを通して、他の活動にも積極的に取り組む姿が見られるようになった。口腔内写真を撮影した時点で歯肉炎がなかった児童は３０人、２週間の取組により歯肉炎が改善された児童は１３人、歯肉炎が悪くなった児童はいなかった。この結果からも、歯みがきによって歯肉炎が改善されることが分かる。

取組後の児童の感想
- 口腔内写真を活用することで歯肉炎の場所が分かり、歯肉炎に気を付けてみがくようになった。
- 染め出しを繰り返し行うことで自分のみがき方の癖が分かり、赤い部分に気をつけてみがくようになった。
- 歯みがきを頑張れば歯肉炎がよくなることが実感できてうれしい。これからも歯みがきを頑張ろうと思う。
- 歯みがきと「ｅｎｊｏｙ　ｂａｎｄ」（金管鼓笛隊）を頑張りたい。

（４）２月　学校歯科医のメッセージの紹介

養護教諭が歯みがきタイムに教室を巡回する際に、学校歯科医のメッセージを児童に伝えている。

メッセージを聞いた後、口腔内写真で歯肉炎の場所を確認して手鏡を持って丁寧にみがく児童が今まで以上に多く見られるようになった。

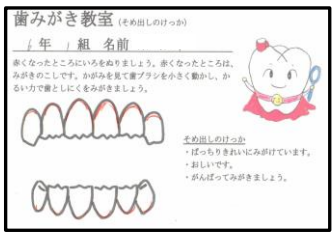
自分の歯肉の写真を見てどう思いましたか。改めて見ると歯肉が赤く腫れているのが分かりますね。みがき残しが歯肉炎の原因になっています。一か所２０回みがけるといいです。それを続けることで歯肉炎はよくなります。でも、あまり一生懸命みがくと力が入りすぎて歯肉を傷つけて赤く腫れることがあるので気を付けてください。今度みなさんの歯肉の状態を診るのを楽しみにしています。

（５）３月　卒業前歯科健診

昼休みに卒業前の歯科健診を行っている。歯肉炎がないきれいな状態を卒業後も続けていけるように、学校歯科医が一人一人に声をかけている。中学で給食後に歯をみがく生徒が少しずつ増えてきたのは、歯みがきを通して自分の健康は自分で守っていこうとする力がついてきた現れである。

（６）その他の活動

児童健康委員会が学期に一度、昼休みに学年ごとに染め出しをしている。第６学年は歯肉の観察も行い、赤くなった部分と歯肉炎の部分に気を付けてみがけるようにしている。



３　成果と課題

一年間を通して、歯肉炎予防の取組を継続して行うことで、歯肉炎罹患率が改善できた。学校歯科医や歯科衛生士による専門的な立場からのアドバイスは、児童の丁寧な歯みがきの習得につながり、臨時歯科健診で歯肉炎が改善されていることが実感でき、丁寧な歯みがきの意欲付けにつながっている。

歯肉炎予防の取組は、継続して行うことで成果を上げることができる。これからも担任、養護教諭、栄養教諭、学校歯科医、歯科衛生士が連携して歯肉炎予防のアプローチを行っていく。

■　岐阜市立岩野田小学校

１　はじめに

本校の健康教育の目標は、「自分の体を知り、心と体の健康に努めることができる子」である。５年前に給食後の歯みがきタイムを設け、食事の後に歯みがきをするという習慣が身に付くよう指導を進めている。対象の第５学年からは歯肉炎を予防する歯のみがき方を指導している。しかし、歯肉炎予備軍の児童が増えてきていることや、歯みがきの時間に歯ブラシをくわえているだけで歯をみがけていない児童がいる。そこで、学校、学校歯科医、家庭とが連携し、継続指導していくことにした。

２　ねらい

・様々な専門的立場から発達段階に応じた指導を行い、自ら健康な歯や口腔状態を守る意識を高める。
・食育と歯肉の健康との関係を探り、児童に意識化を図る。

３　実践

（１）学校歯科医との連携

①ベロトレーニング

歯科健診の際に、口の筋肉が弱くなっている児童が多いということが分かった。授業中に口を開けている子は、歯並びが悪かったり、口呼吸の影響から歯肉炎になりやすかったりする。そこで、学校歯科医から「ベロトレーニング」を教えていただき、第５学年で毎日給食前に行った。野外学習の際にも、児童が自らベロトレーニングを取り入れ、歯や口腔の健康を意識する姿が見られた。

②歯肉・歯垢検診

第５学年は１１月に歯肉・歯垢検診を行う。学校歯科医との打ち合わせで、個別指導を充実させた方が自分の歯と向き合い、改善できるのではないかとご意見をいただき、検診や指導内容を見直した。一人一人が検診時に鏡を持ち、自分の歯を見ながら学校歯科医からブラッシング指導をしていただいた。その後、個別に検診結果を渡すと、歯みがきタイムに注意された場所を丁寧にみがく姿が見られた。

③経過観察児童への歯みがき指導

歯科健診において、歯肉１・歯垢１の所見で、経過観察になっていた児童に対し１１月に再度個別の歯科指導を行った。学校歯科医に歯のみがき方を指導していただいた。どこに汚れが残りやすいか特徴を確認し、歯ブラシの動かし方や力の入れ方、歯ブラシの当てる位置を指導していただいた。指導を受けた児童は、教室で指導を受けていない児童に対し、アドバイスをする姿が見られた。

（２）家庭との連携

①歯肉・歯垢チェックカード

第５学年は、夏休み中に親子で歯肉・歯垢チェックを行い、親子で歯みがきを見直す時間を設定した。歯肉のチェック、歯みがき時間の測定、プラークテストを行い、保護者には歯や口腔の健康に関してのアドバイスや励ましの言葉を記入していただいた。学校保健

安全委員会では、『高学年になり、仕上げみがきをやめたが、こんなにみがき残しがあるのなら仕上げみがきを続けたい』という意見もあった。

冬休み中にも同様に、歯みがきの取組を振り返ることができるよう親子で行うチェックシートを配布する予定である。

②歯みがきカレンダー

第５・６学年は、１週間の歯みがきカレンダーチェックを行った。高学年でも家庭で仕上げみがきを実践する機会を設けた。歯みがきをしたら緑色、鏡を使ったら黄色、仕上げみがきをしてもらったら赤色を葉のイラストに塗るようにした。同じ期間中は、毎日の給食後の歯みがきの時間に手鏡を使い、歯肉炎を予防する歯のみがき方を行った。手鏡を使うことで、みがき残しが少ないブラッシングをすることができた。

年度初めの学級懇談会の際に、担任から歯科の重点学年になっていることや、歯や口腔の健康が生涯の健康に繋がることを説明したことで、保護者の協力も得られ、歯みがきカレンダー後の歯肉・歯垢検診では、歯肉や歯垢の改善が見られた。

（３）外部講師による歯科指導

今年度は、岐阜市の健康増進課の歯科衛生士さんに協力をしていただき、第１・２学年の歯科指導をしていただいた。専門的な立場からの指導ということもあり、子供たちも真剣に歯みがきをする姿が見られた。事前に歯科衛生士と打ち合わせを行い、学校が児童に理解させたい内容と歯科衛生士の指導内容を確認したことで、付けたい力を身に付けることができた。

（４）食育アンケート

児童の食に対する意識と歯や歯肉の健康との関連性を探るべく、５年生５７人にアンケートを実施した。引用は総務省・文部科学省からで、歯の優良学校の内容も一部加味してある。結果は別紙のとおりである。食事のバランスを考えることや、「かむ」ことを意識している児童は多く、何より食事を味わっているという根本的な楽しさを抱いていることは好ましい。アンケート内容と歯や歯肉の健康との結びつきを今後の検証課題としたい。

４　成果と課題

○学校歯科医の協力を得ることができ、今年度は歯科指導の際に入っていただけた。今後も専門的な知識を教えていただきながら指導を進めたい。

○他校と実践を交流したことで、自校でも取り入れることができた。今後は、本校の実態と照らし合わせながら継続していきたい。

○丁寧な歯みがきをするためには、自分の歯の汚れを定期的に認識し、正しいみがき方をしているか思考・実践させることが効果的である。

●家庭により、歯に対する意識が二極化している。齲歯が多数あったり、歯肉・歯垢の結果２であったりしても医療機関に受診しない。

●本校は第５学年が歯科の重点学年となっているが、第４学年から歯肉炎の予備軍が増えてくる。予備軍が増える前に指導が行えるように計画したい。

●子供たちが学習した内容を継続して実践できるよう、定期的に指導をしていく必要がある。

●歯肉と食育との関係性を検証していくには、専門的な知識と観点が不足しているので、他の学校にも幅広く活用できる調査内容や方法を明確にする必要がある。